北部病院だより　第111号(2017.9)
Showa University Northern Yokohama Hospital

【巻頭言】「横浜市北部　産前産後ケア・子育て支援研究会」について
【医師の配属・異動・退職、診療統計】
【TOPICS】保健医療学部１日体験入学について
【患者さんからのご意見・ご要望】
【TOPICS】防災の日について
【TOPICS】大規模地震時医療活動訓練について
【お知らせ】秋期市民公開講座のご案内について
【編集後記】

巻頭言　「横浜市北部　産前産後ケア・子育て支援研究会」について

〈産婦人科〉
長塚　正晃　教授

平成 29 年 7 月 10 日に「横浜市北部　産前産後ケア・子育て支援研究会（本研究会）」を開催いたしました。院内から 48 名、院外の横浜市北部地域の産婦人科医、小児科医、精神科医、助産師、保健師、看護師、横浜市こども青年局の方々38 名、計 86 名の方々に参加いただきました。

そして、母性認定看護師である昭和大学病院の佐藤陽子先生、当院こどもセンター長の梅田陽先生、メンタルケアセンター教授の稲本淳子先生、横浜市こども青年局総務部医務担当部長の辻本愛子先生にご講演いただきました。

〇本研究会の実施の理由

妊産婦メンタルヘルスケアが重要であり、

1)核家族化、職場環境などからメンタルヘルスの問題が生じる場合がある。

2)厚生労働省の「子ども虐待による死亡事例等の検証結果等について（第 12 次報告）」によると心中以外の死亡事例の 61.4%が 0 歳児、また 0 歳児の 55.6%が月齢 0 か月という報告がされた。

3) 2005～2014 年の 10 年間に東京 23 区で発生した妊産婦の異常死の分析結果から、自殺が 63 例（妊娠中 23 例、産褥 1 年未満 40 例）あり、これは東京 23 区における産科異常による妊産婦死亡率の 2 倍以上であった。（社会保障審議会児童部会児童虐待等要保護事例の検証に関する専門委員会　2016）。

などの衝撃的な事実があるからです。

〇本研究会の講演の要旨

1)産後 2 週間健診は、後うつリスクが最も高くなり、その早期発見に有用であること。

2)メンタルケアが必要な産婦さんは産婦人科の 1 か月健診の次に病院・診療所を受診するのが小児科での健診であり、支援が途切れる可能性があり、その間のフォローの在り方が重要であること。

などでした。

横浜市では、平成 29 年 6 月 1 日以降に出産された横浜市民の方を対象に、産後 2 週間、産後 1 か月健診に産婦健康診査費用補助券の配布を開始しております。産後 1 か月の補助はすべての対象者が該当いたしますが、産後 2 週間健診は医師が必要と判断した方に実施されます。これは妊婦健康診査用補助券配布とは違う新しい制度です。

〇本研究会の目的

病院・診療所と地域行政（保健師さんなど）との連携を深めていくことであり、参加者の皆さんはその重要性を共有することができたと考えます。

平成 32 年までに「子育て世代包括支援センター」を全国に整備する予定になっております。当院の妊産婦メンタルケアの体制を確立するとともに横浜市北部地域における、妊娠・出産・育児の切れ目ない支援をしていきたく存じます。

医師の配属・異動・退職

新規配属医師

2017 年 9 月

【附属施設より】

・濵田　和幸　　（内科）　　大学病院腫瘍内科より（8 月 14 日付）

異動・退職医師

2017 年 9 月

【配置転換】

・土屋　静馬　　（救急センター　　⇒　旗の台校舎　医学教育推進室へ（9 月 1 日付）

・岩久　貴志　　（こどもセンター　　⇒　大学病院　小児科へ（9 月 1 日付）

・上條　香織　　（こどもセンター　　⇒　藤が丘病院　小児科へ（9 月 1 日付）

診療統計

前年同月比　（）内は 1 日平均

診療実日数 2016 年 7 月（入院：31 日・外来：25 日）、2017 年 7 月（入院：31 日・外来：25 日）

	入院患者数	外来患者数	救急搬送数	手術件数
2016 年 7 月	18,646 人(601.5 人)	28,217 人(1128.7 人)	443 件(14.8 件)	712 件(32.4 件)
2017 年 7 月	19,106 人(616.3 人)	27,519 人(1100.8 人)	565 件(18.8 件)	717 件(35.9 件)

TOPICS　～保健医療学部 1 日体験入学について～

平成 29 年 8 月 1 日に保健医療学部 1 日体験入学を当院で行いました。

昭和大学保健医療学部への進学を考えている高校生を中心に看護学科 10 名・理学療法学科 5 名・作業療法学科 5 名の計 20 名の参加者を受け入れました。

午前中のプログラムは、各学科に分かれて病棟見学を行い、お昼は学生と歓談しながら、大学生活への不安や楽しみを話し合いました。

午後のプログラムは、看護学科においては感染管理対策演習で防護服の着用と手指衛生の体験を行い、理学療法学科は検査測定法の体験、作業療法学科は上肢装具（スプリント）の作成などの体験を行いました。貴重な体験に高校生のみなさんも楽しめていたように思います。

体験入学に来ていただいた学生が昭和大学へ入学し、当院で勤務することを心より願っております。

〈学生と高校生の昼食会の様子〉

〈看護学科の感染管理対策演習の様子〉

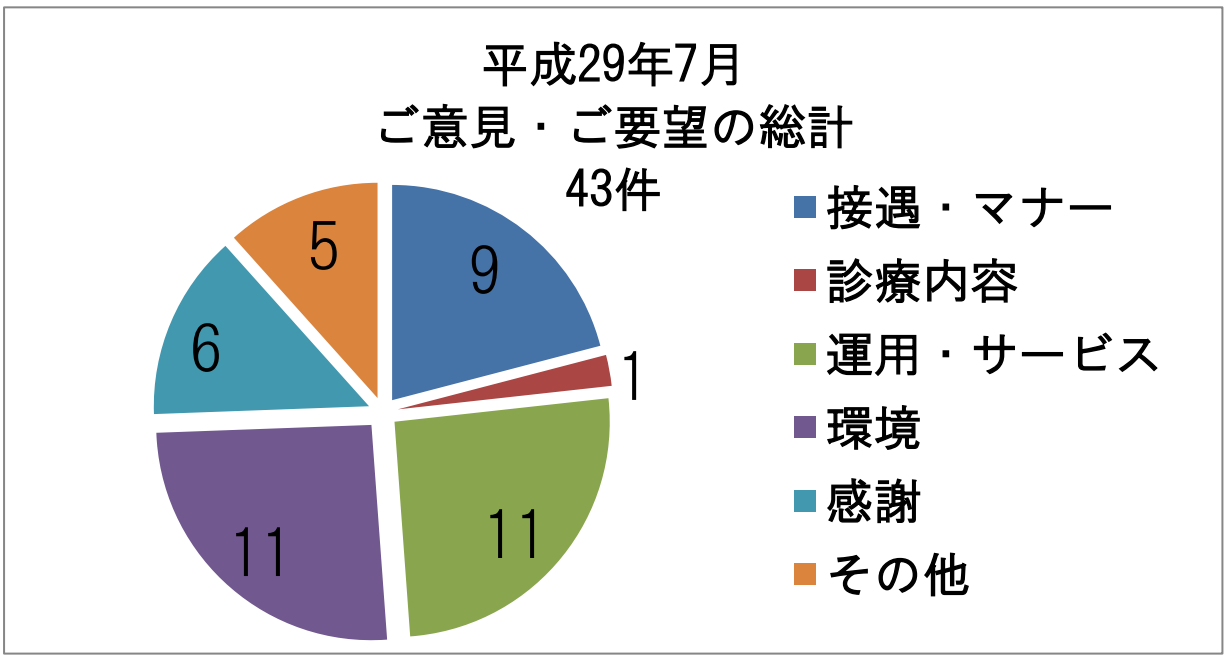
患者さんからのご意見・ご要望

日々患者さんよりいただきましたご意見･ご要望に関しましては､院長及び関連する部署の責任者に報告し､改善に努めております。

今までのご意見の中で多くいただいたものや最近のご意見･ご要望を中心に改善策を掲載させていただきました。掲載されていない内容についても対応しておりますのでご了承ください。

今後もお気付きの点やご要望をお聞かせくださいますようお願い申し上げます。

ご意見・ご要望	回答・改善等
＜運用・サービスについて＞ 採血の受付でも氏名・生年月日の確認をするようになり、大変煩わしいです。 採血するときに確認しているので、受付での確認は無駄なことだと思います。 他 10 件	この度は煩わしい思いをさせてしまい、大変申し訳ございませんでした。 当院では、患者間違いを防ぐために診察・検査・処置などの前にお名前と誕生日で患者さんのご本人確認をさせていただいております。 280 番受付でのご本人確認は従来行っておりませんでしたが、診察券誤認防止のため、他の受付窓口と同様、患者さんのご本人確認を行うこととなりました。 ご理解とご協力の程、よろしくお願いいたします。
＜感謝について＞ 半年間という長きにわたって、受け持ち看護師さんをはじめ 4A 病棟の皆様には大変お世話になりました。 はじめは辛い入院生活でしたが、皆様と打ち解けて色々お話しできるようになり、楽しかったです。母の入院を通して、看護師さんの激務を目の当たりにしました。診断や治療方針を決定するのは医師ですが、最前線で動いているのは看護師さんでした。華奢な体で一生懸命働いている皆様に心打たれました。 本当にありがとうございました。 他 5 件	この度は温かいお言葉をいただきありがとうございました。 看護の「看」という字は、手と目で構成されております。 その言葉通り、私たち看護師の手と目を使い、患者さん・ご家族の皆さんにとって良い看護が提供できますように、いただきました感謝のお言葉を胸に、これからも日々、精進して参りたいと思います。 季節柄、どうぞご自愛ください。 ありがとうございました。



TOPICS　～防災の日について～

9 月 1 日【防災の日】についてご存知ですか？

台風、高潮、津波、地震等の災害についての認識を深め、それらの災害に対処する心構えを準備するためとして、1960 年に制定されました。

1982 年からは、9 月 1 日の【防災の日】を含む 1 週間（8 月 30 日から 9 月 5 日まで）が「防災週間」と定められています。

1923 年 9 月 1 日に発生した、『関東大震災』に由来しています。

また、台風の接近・上陸は 8 月から 9 月にかけて多く、制定前年の 1959 年に『伊勢湾台風』が襲来しました。

以上のことから、この時期は防災について考えるいい機会と言えるでしょう。

そして、2017 年 9 月 1 日に当院で、【防災訓練】を行います。

災害時の各部署での初動の確認及び迅速な本部設営を目的として行います。

ご理解・ご協力の程、宜しくお願いいたします。

TOPICS　～大規模地震時医療活動訓練について～

平成 29 年 7 月 29 日（土）に大規模地震時医療活動訓練が行われ、当院の DMAT が参加しました。こちらの訓練は日本全国の DMAT が集結し、きわめて大規模な訓練となっています。

ところで、DMAT という言葉をご存知でしょうか。DMAT とは「災害急性期に活動できる機動性を持った、トレーニングを受けた医療チーム」と定義されており、災害派遣医療チーム　Disaster Medical Assistance Team　の頭文字をとり、DMAT（ディーマット）と呼ばれています。医師、看護師、業務調整員（医師・看護師以外の医療職及び事務職員）で構成されています。

大規模災害や多傷病者が発生した事故などの現場に、急性期（おおむね 48 時間以内）に活動できる機動性を持った、専門的な訓練を受けた医療チームです。

被災地は三重県、大阪府、兵庫県、和歌山県という想定で、三重県の活動拠点本部での活動や傷病者の広域搬送、他県の DMAT と連携することができ、非常に収穫の多い訓練となりました。

〈左から中野医師、神尾医師、峯村業務調整員、畠山看護師、狩野看護師＞

〈愛知 DMAT チームと連携を取り合う様子〉

お知らせ　～秋期市民公開講座のご案内について～

平成 29 年度秋季市民公開講座を以下のとおり開催する運びとなりました。
皆さんお誘い合わせのうえ、是非お越しください。

○日　　時：2017 年 10 月 14 日（土）
○受　　付：13：15～（予定）
○会　　場：昭和大学横浜市北部病院　西棟 4 階講堂
○受 講 料：無料

○講演内容：
第 1 部「腰痛について」13:30～14:00　整形外科　　大下　優介　講師
第 2 部「喘息について」14:30～15:10　呼吸器センター　松倉　　聡　准教授
○申込方法：院内設置の受付箱に申込書を投函
①2 階エスカレーター横
②1 階総合案内または管理課
③地下 1 階防災センター
FAX または E-mail にて申込書を送信
※申込書は院内で配布・ホームページに掲載しております。

○申込書送信先：
FAX：045-949-7117
E-mail：nhkoukai@ofc.showa-u.ac.jp
○問い合わせ先：
管理課　045-949-7000（代表）

〈整形外科〉
大下 優介　講師

〈呼吸器センター〉
松倉 聡　准教授

～編集後記～

9 月に入り、まだ残暑が続いていますが、夏休みシーズンも終盤を迎えています。

みなさんは、花火をご覧になる機会はございますか。

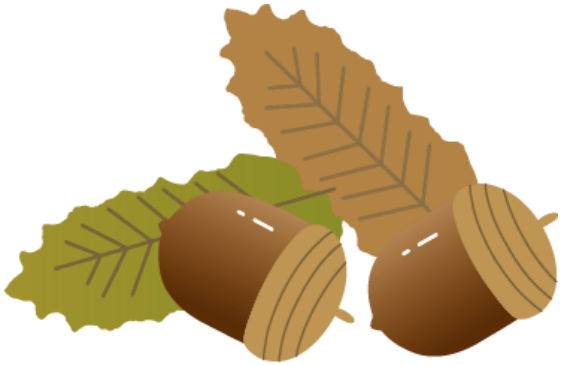
関東だけでも 150 以上の花火大会が開催され、夏の風物詩＝花火というイメージを持たれている方も多いと思います。夏の時期に花火大会が多いのは、死者の霊を慰めるためとも言われています。

我が家も例年、あつぎ鮎まつり花火大会へ行っています。客席から打ち上げ位置が近く、花火を下から見上げる感覚は圧巻です。

花火を見て、涼や癒しを感じますが、花火大会終了後の駅が人で身動きできなくなると、現実世界へ引き戻されてしまいます。

9 月以降も探してみると開催されますので、ぜひみなさんも足を運んでみて下さい。

〈臨床工学室　　鳥居 一喜〉



北部病院だより　第 111 号
平成 29 年 9 月 1 日発行
発行責任者　門倉　光隆（昭和大学横浜市北部病院長）
編集責任者　緒方　浩顕（広報委員会 委員長）
発行　地域中核病院　昭和大学横浜市北部病院
〒224-8503　横浜市都筑区茅ケ崎中央 35-1
電話 045-949-7000(代表)
URL：http://www.showa-u.ac.jp/SUHY/index.html
北部病院ホームページにて最新・過去の『病院だより』がご覧いただけます。